

# 白金フリー燃料電池カーボン触媒イノベーション Innovation for Pt-free carbon catalysts in fuel cells

## 概要

燃料電池自動車の本格普及には高価な白金を使用しない触媒開発が必須である。本計画では、白金フリーカーボン触媒の基礎研究から産業化まで繋ぐ国内初の大規模研究拠点の設立を目指す。申請代表者の基礎研究成果(Science 2016)を発展させ、さらに実用化へ結びつけるために、TIA5研究機関含む組織が協同して、戦略構築、産業界との交流、情報収集、探索実験、ワークショップ開催および大型プロジェクト申請を行う。

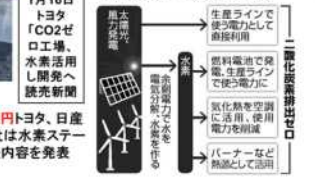
### 燃料電池自動車の普及が始まった

今後10年の取り組みが水素社会の将来を決める

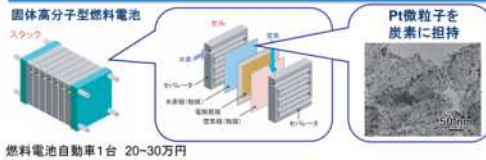
トヨタ、燃料電池車の特許5680件を全公開  
2015/1/8 6:30  
日本の自動車界がリード

燃料電池車世界市場、2030年に4兆7520億円の見通し 欧州市場が拡大

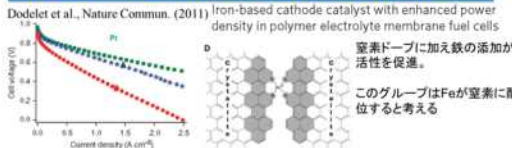
トヨタは水素と再生可能エネルギーを併用してクリーンな工場を目指す



### 燃料電池では高価で希少な白金が触媒(カソードで多量使用)



### 非白金カーボンアロイ触媒が注目 窒素ドーパグラファイト系炭素



### 窒素ドーパカーボン触媒研究の現状と課題

窒素をドーパしたグラファイト系炭素は皆、酸素還元触媒活性を示す  
カソード反応機構が不明  
 $O_2 + 4e^- + 4H^+ \rightarrow 2H_2O$  (4電子還元機構)  
 $O_2 + 2e^- + 2H^+ \rightarrow H_2O_2$   
 $H_2O_2 + 2e^- + 2H^+ \rightarrow 2H_2O$  (2+2電子還元機構)

活性窒素種の論争:ピリジン型かグラファイト型か  
ピリジン型窒素 2配位  
グラファイト型窒素 3配位

FeやBの添加効果やグラフェンの歪効果についてメカニズムが不明

**課題**

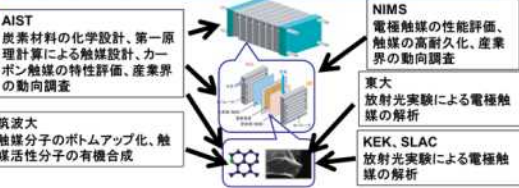
- 触媒活性一桁以上の向上
- 耐腐食性・耐久性の向上
- 電極性能・グラフェン分散性の向上
- 活性点やメカニズムの解明

**国外の現状**  
P.Zelenay (2011年にポリアミンを出発材料を炭素化して世界最高活性触媒(Science))  
2013年にアルカリ雰囲気での論文  
Dodelet (2014年にZelenayとならぶ炭素雰囲気での世界最高活性をNat.Comm.に報告。メカニズムを含め精力的に研究)  
L.Dai (グラフェン触媒。アルカリ雰囲気が多いが2015に酸素雰囲気での報告)

**国内の現状**  
NEDOカーボンアロイプロジェクトは基礎研究は終了し応用中心で東工大が継続。  
ALCAで日清紡と群馬大。  
原子レベル研究は理論計算や光電子分光法が中心で局所電子状態の実験研究はない

## 研究内容(全体)

燃料電池自動車の本格普及のための白金フリー触媒開発には、多角的連携研究が必要不可欠。本研究では、白金フリーカーボン触媒開発を軸として、つば地区の特色・強みを生かして基礎研究および工学研究をフルに連携し、材料研究から実用化までを繋ぐ戦略を立てる。



高活性・高耐久性の窒素ドーパカーボン触媒の候補材料・構造の選定、実用化戦略の立案後、本格研究拠点構築へ

## TIAかけはしプロジェクト

### 白金フリー燃料電池カーボン触媒イノベーション

代表 筑波大学数理工学系 中村潤児

AIST 児玉昌也 羽鳥浩章 曾根田靖 加登裕也 大谷実 藤谷忠博	NIMS 森利之 有賀克彦 Jonathan Hill	★筑波大 中村潤児 神原貴樹 鍋島達弥 岡田晋 近藤剛弘	東大 原田悠久 松田巖 山本達	KEK 間瀬一彦 阿部仁 近藤寛(客員教授、産総研)	SLAC 小笠原真久
---	--------------------------------------	---	--------------------------	-------------------------------------	---------------

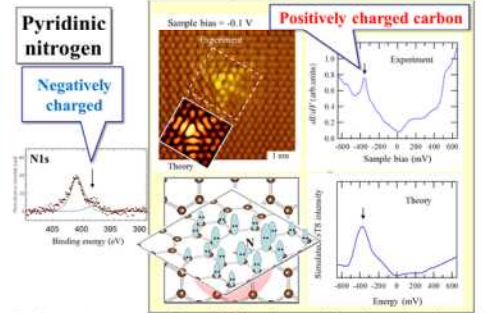
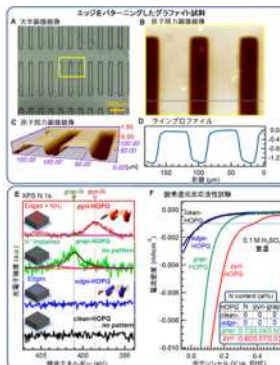
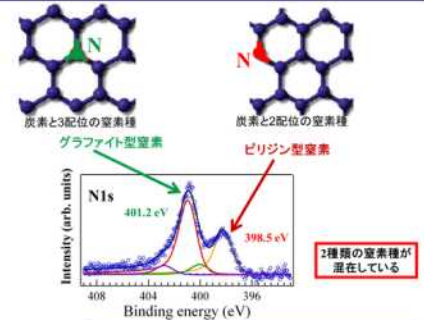
### Science (2016年)で発表した研究を発展させるプロジェクト

レアメタル白金に代わる燃料電池炭素触媒の活性点を形成する窒素種を特定

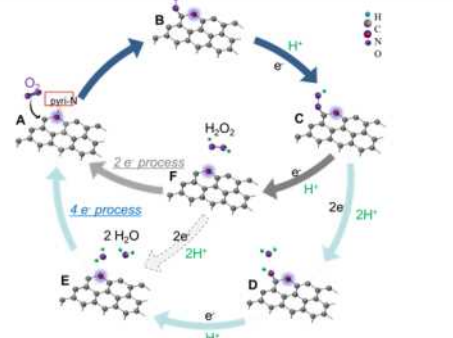


ピリジン型窒素を導入すれば高活性触媒がつけられる。触媒開発が急速に進むと期待される。

### どちらの窒素種が活性点をつくるのか?



### 提案する窒素ドーパカーボン触媒のORRメカニズム



## 活動内容

1. ワークショップ (2016年10月31日@筑波大学)
2. プロジェクト内情報共有
3. プロジェクト内研究会 4回(5月、8月、12月、3月、研究紹介、共同研究化検討、戦略)
4. プロジェクト内共同研究
5. 個別産学共同研究
6. 産業界への情報発信(電子情報+個別訪問)
7. 国際共同研究
8. 拠点の拡大